

平成20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

◎取組分野：【交流】

1. 都道府県、市町村 長野県^{ねばむら}根羽村
2. 団体名 根羽村
3. 取組みの名称 矢作川下流住民との「親子わんぱく体験隊」協働活動
4. 取組概要等

◇概要

長野県が平成15年度より行っている^{もり}森林の里親促進事業において、根羽村では平成16年度、愛知県刈谷市に本社のあるアイシン精機(株)、アイシン・エイ・ダブリュ(株)の2社と森林の里親による協定を締結した。

矢作川の源流部に位置する根羽村と下流に住んでいる住民との交流を深め、さらには森林ビジネスの発展に結びつけていくことを目的として、平成16年度から主に契約企業で働く社員とその家族を対象とした様々な自然・森林・林業体験を行う「根羽村親子わんぱく体験隊」を企画した。

「根羽村親子わんぱく体験隊」では、根羽村の自然環境や地域特性等を活かすよう、村の総合観光施設であるネバーランドや、檜原研修所、矢作川支流である檜原川、村有林などの各フィールドを活用し、四季折々の美しい山村風景の中で夏・秋・冬の年3回の体験活動を行っている。夏は檜原川での魚つかみや水遊び、秋は村有林内での森林整備（間伐・枝打ち）作業や大径木の伐採見学と木工教室、冬は村有地などでの雪中体験等を実施している。

また、こうした活動を通じて地元住民と交流ができるようにするための、村の農林業を活用して郷土料理や木工クラフト、ツリークライミングを企画し、村の婦人会、森林組合や村民の協力も得て、人的交流を行ってきた。

活動が安定的なものとなるよう、企画・運営には環境学習の実戦経験が豊富な市民グループやNPOからの協力を得て体制の充実を図っているが、その体制の中で、アイシングループスタッフの参加意欲が醸成されてきたことから、平成20年度からはアイシンのスタッフによる企画・運営を行い、組織の効率化や強化を行っている。

この活動によって、平成19年度から新たにアイシングループ内のアイシン高丘(株)、アイシン加工(株)、アイシン・エーアイ(株)の3社と森林の里親促進事業の協定を結び、契約企業の増加を図っている。

◇活動の規模

項目	H15	H16	H17	H18	H19
イベント		4	3	3	3
回数	解説	単位：回			
イベント		604	531	330	362
参加者	解説	単位：人 親子わんぱく探検隊（夏・秋・冬）			

◇活用している地域資源

矢作川上下流域のさらなる交流と連携を強めるため、次のような資源を活用している。

・地理的資源

矢作川源流の支流の一つである檜原川、ネバーランド周辺の村有林、ブランドとした根羽

スギ材

・文化資源

四季折々の景観の美しい山村風景、愛知・静岡と接続する三州街道、名産物である五平餅、トウモロコシなどの夏野菜

・人的資源

郷土料理名人、木のクラフト名人

◇地域活性化のポイント

具体的な成果として、平成16年度からスタートしたアイシングループとの森林の里親促進事業の契約企業および契約額の増加が図られた。また、平成19年度から行っている根羽村水源の森基金への寄付に協力してもらい、環境保全に関する各事業に寄与している。

根羽村では、林業の再建による新規雇用人口の増加、定住の促進を地域活性化のポイントとしており、これらの活動によって村の森林整備が促進され、平成21年度以降、年間平均で約500haの間伐を予定し、林業振興につなげたいと考えている。

◇事業の今後の展開方向

今後予定している活動として、平成21年度以降も夏・秋の親子わんぱく体験隊の実施、冬の下流域住民への根羽の雪プレゼントがあるほか、アイシングループの地域環境学習活動にも毎年協力し、村有林においてアイシンの拠点のある矢作川下流域の小学生約100名の間伐体験も実施している。

今後の事業展開としては、根羽村の地理的資源や人的資源、文化的資源の掘り起こしを行い、これまでの活動の成果・体制を活かした新たな交流事業を企画していきたいと考えている。

こうした交流をもとに、根羽村の基幹産業である林業の再建を図り、定住者の増加に結びつけ、山村地域の活性化へと展開していくこととしている。

平成16年度に契約したアイシングループ5社との森林の里親促進事業による契約期間は平成20年度に終了するが、現契約企業5社において、契約期間の延長（平成21年度以降）、契約金額の増加などについても理解してもらい、継続的な取り組みにつながっている。

さらには、このような矢作川下流域との様々な交流を通じて、アイシングループ以外の都市部企業との森林の里親促進事業の新規契約の開拓や、根羽村水源の森基金への寄付金の増加にもつなげていきたいと考えている。

